

第 41 章

3 ニーファイ 12 - 14 章

はじめに

地上で教導しておられたとき、イエスは山上の垂訓を説かれた。それは十分に固い決意をもって完成に向かって努力するよう弟子たちを励ますためだった。復活の後、イエスは西半球でモルモン書の民に御姿を現され、同じ説教をされた。

この説教に含まれている福音の標準は、近代の啓示を通して、わたしたちの時代においても再確認されてきた。大管長会のジェームズ・E・ファウスト管長（1920 - 2007 年）は次のように述べている。「山上の垂訓における救い主の深遠なメッセージは、わたしたち全員にとって『燃えるしば』と同じくらいに貴いものです。『まず、神の王国を築き、神の義を打ち立てることを求めなさい。』（ジョセフ・スミス訳マタイ 6:38。マタイ 6:33 も参照）このメッセージを心と霊に貫き通す必要があります。わたしたちは、このメッセージを受け入れるとき、現世において何を支持し、擁護していくかを決めているのです。」（『リアホナ』2004 年 5 月号, 67）

これらの神聖な原則をモルモン書から学ぶことによって、わたしたちはいつも忠実であり、完成への道から離れないために役立つ洞察を得ることができる。

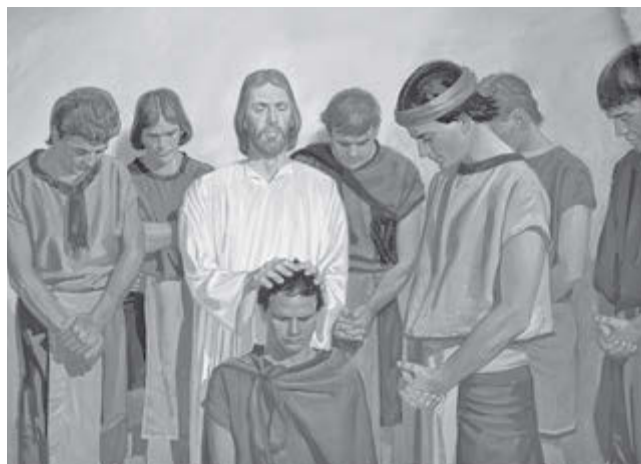
注解

3 ニーファイ 12 - 14 章 人生の青写真

• 聖書とモルモン書に含まれている山上の垂訓は、主が示された完成への青写真である。この垂訓について、ハロルド・B・リー大管長（1899 - 1973 年）はこう語っている。「キリストがこの世に來られたのは、人類の罪を贖うためだけでなく、神の律法の完全な標準と天の御父に対する従順について世の人々に模範を示すためでもありました。主は山上の垂訓において、御自分の完全な属性についての幾らかの啓示、あるいは実践に裏打ちされた言葉ばかりが記された自叙伝と言ってもよいものをわたしたちに与え、そうすることによってわたしたち自身の生活の青写真を与えてくださったのです。」（*Decisions for Successful Living* [1973 年], 55 - 56）

3 ニーファイ 12:1-2 使徒の言葉に耳を傾ける

• 救い主は、ニーファイ人の中から十二人の弟子を召され、彼らに力と権能を授けられた。十二人の弟子に従うことがどれほど大切かを強調した後で、ニーファイ人に説教を始められた。近代の啓示も主の選ばれた僕に従うことによって安全と祝福がもたらされることを強調している（教義と聖約 1:38 ㊦; 21:6 参照）。十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老は、大管長会と十二使徒定員会に従うことがなぜ



ジェフリー・R・ホランド、© IRI

それほどまでに大切なのか説明している。

「あらゆるときに、特に逆境や危険のときに、子供のように当惑し、方向を見失い、幾分恐れを感じるときに、人間のよこしまな行いや悪魔の策略により、足もとをすくわれ、道をそれそうになるときに、教会の使徒と預言者という土台が祝福となります。現代のような時代のために、大管長会と十二使徒定員会は『預言者、聖見者、啓示者』の責任を神から授かり、皆さんから支持されています。……

……キリストを土台とするなら、いつも……守りが得られます。今体験している、またこの先ほとんどいつも体験するであろう危険の中にあっても、この世の嵐はわたしたちを滅ぼすことはできません〔ヒラマン 5:12 参照〕。」（『リアホナ』2004 年 11 月号, 7 参照）

3 ニーファイ 12:1-2

この聖句をマタイ 5:1-2 と比較する。
モルモン書の記録では何が付け加えられているか。

3 ニーファイ 12:3-12 至福の教え

• 救い主の説教は至福の教えと呼ばれる宣言で始まる。これらは「……は幸いである」と宣言する一連の声明からなる（3 ニーファイ 12:1-11 参照）。至福は「幸運であること」「幸せであること」あるいは「祝福されていること」を意味する（マタイ 5:3）。ウェブスターの辞書でこの言葉は「この上ない喜びの状態」と定義されている（*Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*, 第 11 版 [2004 年], 107）。このような言葉は聖徒がこの説教の教えを实践したときにもたらされる結果を表している。

『末日聖徒版聖書辞典』(LDS Bible Dictionary)の説明によれば、至福の教えは「高尚な霊的特質を構成する特定の幾つかの要素について述べている。その霊的特質が完全な状態で存在するときにはいつでも、それらの要素がすべて備わることになる。至福の教えは、それぞれの教えが別個のものではなくむしろ、互いに関連し合いながら進む形で並んでいる。」(“Beautitudes,” 620)『聖句ガイド』は次のように補足している。至福の教えは「一つ一つの教えがそれぞれに、前に述べられている教えを基にして組み立てられている。」(「至福の教え」122)



ハロルド・B・リー大管長は、至福の教えは「完全な生活への憲章」を具体的に表現していると教えている。「そのうちの4つは自分自身に〔関係があり〕」、残りの4つは「人間社会の人とのかかわりに〔関係がある〕。」(Decisions for Successful Living [1973年], 57, 60) 以下の表はその関係を明らかにしている。

自分自身とのかかわり	人とかかわり
心の貧しい人々は、幸いである。	柔和な人々は、幸いである。
悲しむ人々は皆、幸いである。	^{あわ} 憐れみ深い人々は、幸いである。
義に飢え渴いている人々は皆、幸いである。	平和をつくり出す人々は皆、幸いである。
心の清い人々は皆、幸いである。	わたしの名のために迫害される人々は皆、幸いである。

3 ニーファイ 12:3 「わたしのもとに来る心の貧しい人々は、幸いである」

・ハロルド・B・リー大管長は、心の貧しいという言葉の意味を次のように定義している。

「主はこう言っておられます。『こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。』(マタイ 5:3) 言うまでもなく『心の貧しい人』とは霊的に乏しい人、霊的

な貧しさを痛感して助けを切望している人を意味します。……

もし完成を目指そうとするならば、完成への道を上り始めようとするならば、わたしたち一人一人が、一度次のように自問してみなければなりません。『自分にまだ欠けているものは何か。』(Stand Ye in Holy Places [1974年], 210)

・「わたしのもとに来る」(3 ニーファイ 12:3) という言葉は、山上の垂訓の新約聖書版には見当たらないが、救い主の教えを明らかにしてくれる。心が貧しいことは、キリストのもとに来るならば、幸いであるということである。救い主は、3 ニーファイ 12:2 で、どのようにしてキリストのもとに来るきっかけを作るのか述べておられる。「わたしのもとに来る」という言葉は、原則的に、その他の至福の教えにも当てはめることができる。慰められ(4節)、地を受け継ぎ(5節)、聖霊に満たされ(6節)、^{あわ}憐れみを受け(7節)、神を見る(8節) ためには、「キリストのもとに来」なければならないからである。

救い主が御自分のもとに来ることについて説教をされたとき、3 ニーファイ 11:21 から 12:2 までに、バプテスマという言葉で 19 回口にしておられる。完全に「キリストのもとに来る」ことには、救いの儀式を受け入れることも含まれている。

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994 年)は、キリストのもとに来るためのその他の方法について述べている。「福音を宣言することによって、生活をまっさきものとすることによって、そして死者を贖うことによってすべての人がキリストのもとに来るように招待するのです。わたしたちがキリストのもとに行くことができれば、自分、家族、そして天の御父の子供たち、すなわち生者、死者を問わず、すべての人を祝福することになるでしょう。」(『聖徒の道』1988 年 6 月号, 90)

3 ニーファイ 12:4 「悲しむ人々は皆、幸いである」

・七十人のスペンサー・J・コンディー長老は、至福の教えはどうして段階を踏んで進む教えと見なすことができるか説明している。「至福の教えは義にかなった生活を送るための教えだと見なすことができます。この教えは、段階を踏んで進む形になっており、『[キリスト]のもとに来る心の貧しい人々』(3 ニーファイ 12:3) という言葉で始まります。日の栄えに進む次の段階は、悲しむこと、特に、自分の罪のために悲しむことです。というのは、『神のみこころに添うた悲しみは、……^{すくい}救を得させる^{くいあらた}悔改めに導く』からです(2 コリント 7:10)。』(Your Agency, Handle with Care [1996年], 8)

3 ニーファイ 12:5 「柔和な人々は、幸いである」

• スペンサー・W・キンボール大管長（1895 - 1985 年）は、柔和さは弱さとは違うと説明している。

「主が柔和でへりくだり謙遜^{けんそん}であられたことを考えると、謙遜になるためには、主が行われたことを行わなければなりません。悪を大胆に非難し、義の業を勇敢に推し進め、あらゆる問題に勇気を持って立ち向かい、自分を見失ったり、自分の置かれた環境に左右されたりすることなく、自分がどう評価されるかを気に留めないことです。

謙虚さは、見栄、思いあがり、うぬぼれとは無縁です。弱さ、ためらい、卑屈とも無縁です。……

謙遜そして柔和とは、正しくは、弱さではなく徳を意味します。常に気持ちが穏やかで激しい怒りや情動がないことを意味します。……卑屈な服従とは違います。臆病やおびえとも違います。

どうしたら謙遜になれるのでしょうか。自分が依存していることをいつも思い起こさなければならないと思います。だれに依存しているのでしょうか。主です。どのようにして思い起こせばいいのでしょうか。真心から、常に、礼拝と感謝の気持ちを込めて祈ることです。」（*The Teachings of Spencer W. Kimball*, エドワード・L・キンボール編 [1982 年], 232 - 233）

3 ニーファイ 12:6 「義に飢え渴く」

• シェリー・L・デュー姉妹は中央扶助協会会長会で奉仕していたときに、望み（飢え渴くこと）と行動、すなわち望んだ結果を得るために働く能力の関係について説明している。「霊的な導きに耳を傾ける能力は、わたしたちがどれだけ進んでそれを学ぼうとするかということと密接にかかわっています。ヒンクレイ大管長はよくこのように語っています。『あることを成し遂げるために自分が知っている唯一の方法は、ひざまずいて神に助けを求め、それから立ち上がって働くことです。』御霊^{みたま}の言葉を学ぶ究極の方法は、信仰を持ち、同時に熱心に努力することです。救い主はこのように教えられました。『義に飢え渴^{あか}いている人々は皆、幸いである。彼らは聖霊に満たされるからである。』（3 ニーファイ 12:6、強調付加）飢え渴くとは霊的な努力をすることにはほかなりません。神殿における礼拝、いっそう聖くなるために悔い改めること、人の過ち^{ゆゑ}を赦し、自分の過ちの赦しを請うこと、心からの断食と祈り、これらはすべて、わたしたちに御霊を受けやすい状態^{みこゑ}をもたらしてくれます。霊的な努力は効果があり、主の御声を聞くための鍵^{かぎ}となります。」（「わたしたちは独りではない」『リアホナ』1999 年 1 月号, 107）

3 ニーファイ 12:8 「心の清い人々」

• 十二使徒定員会のジョセフ・B・ワースリン長老（1917 - 2008 年）は、心が清いという言葉の意味について次のように説明している。

「偽りがなければ、心が清いことです。これは、キリストに真に従う者の一人に数えられるうえで、欠かせない特質です。……

偽りがなければ、わたしたちは正直で、誠実で、義にかかった人になります。これらはすべて神の属性であり、聖徒に求められるものです。正直な人は、公正で、自分の言葉に忠実で、正直に行動し、欺瞞^{ぎまん}や盗み、詐欺、そのほかあらゆる不正行為をしません。正直は神のものであり、不正直は悪魔のものです。サタンは時の初めから偽りを語る者でした。正義とは、福音の律法や原則や儀式と調和した生活を送ることです。」（「偽りのない者」『聖徒の道』1988 年 6 月号, 85）

3 ニーファイ 12:9 平和をつくり出す人々

• 十二使徒定員会のラッセル・M・ネルソン長老^{あかし}は、平和をつくり出す人になるための究極的な源について証している。「『平和の君』[イザヤ 9:6] であるイエス・キリストのもとに来ることこそが、地上の平和と人々の友好への道なのです [ルカ 2:14 参照]。』（『リアホナ』2002 年 11 月号, 39）

• 十二使徒定員会のブルース・R・マッコンキー長老（1915 - 1985 年）は、平和をつくり出す人になるための方法について次のように述べている。「平和をつくり出す人——文字どおり、完全な福音を信じ広める者だけが、この至福の教えの持つ完全な意味において、平和をつくり出す者である。福音は全人類への平和のメッセージである。神の子——真理への献身の結果、神の家族に養子縁組をされた者。そのような過程を経て、彼らは神の相続人となりキリストとの共同の相続人となる（ローマ 8:14 - 18; ガラテヤ 3:26 - 29; 4:1 - 7）。」（*Doctrinal New Testament Commentary*, 全 3 巻 [1971 - 1973 年], 第 1 巻, 216）

3 ニーファイ 12:13 「地の塩」

• モルモン書の記録には、「地の塩」となることは教員が追求すべき目標であると記されている（3 ニーファイ 12:13）。モーセの時代に行われた燔祭^{はんさい}の儀式で、塩は神との聖約を記憶にとどめ守るべきだということをわたしたちに思い起こさせるものだった（民数 18:19; 歴代下 13:5 参照）。同じような意味で、聖徒はこの末日において聖約を回復し守る手助けをするべきである。教義と聖約 101:39 - 40 には、「地の塩」と見なされるために何をしなければなら

ないかが記されている。

「地の塩」と見なされることには大切な意味がある。七十人会長会の一員として奉仕していたときに、カーロス・E・エイシー長老（1926 - 1999 年）は、そのことについて神権者に次のように説明している。

「『人々がわたしの永遠の福音に召され、永遠の聖約を交わすとき、彼らは地の塩、また人の味と見なされる。

彼らは人の味となるように召される。』（教義と聖約 101: 39 - 40, 強調付加）

味（s-a-v-o-r）という言葉は、味覚や、風味が良いという意味のほか、深みのある質を有し、高い評価を受けるに足る条件を備えているという意味が含まれます。……

ある世界的に有名な化学者の言葉によれば、塩は古くなくても味が変わらないということです。不純物が混ざったり汚染されたりした場合にのみ、塩は塩気を失ってしまうのです。同様に、神権の力も年とともに効力を失うことはありませんが、不純や汚染によりその効力は失われてしまいます。……

不純な思いを抱いて心を汚し、偽りを語って口を汚し、悪事に走って自己の持てる力を誤用する人は、『人の味』を失い、品格を落とすことになるのです。……

わたしは、特に若人の皆さんに『人の味』を守るための簡単な指針をご紹介します。それは、『清くないことを考えてはならない。真実でないことを語ってはならない。正しくないことを行ってはならない。』（マルクス・アウレリウス、'The Meditations of Marcus Aurelius,' *The Harvard Classics*, チャールズ・W・エリオット編、ニューヨーク：P. F. Collier and Son, 1909 年, 211 にて引用を参照）（『聖徒の道』1980 年 9 月号, 66）

3 ニーファイ 12:14 - 16 「あなたがたの光を……輝かせ」なさい

・十二使徒定員会のロバート・D・ヘイルズ長老は、個人的な経験について触れ、人々の光となることがどれほど大切かを強調しています。



「ニューヨーク州ロングアイランドで成長したわたしは、闇に包まれた外洋を航海する人々にとって光がどれほど大切かを理解していました。灯台が機能しなかったらどれほど危険なことでしょうか。灯台の明かりがともされなかった

としたら、どれほど大きな惨事を招くことでしょうか。

聖霊の賜物を持つわたしたちは、人々の光となれるように聖霊の導きに誠実に従わなければなりません。

『そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよいおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』（マタイ 5:15 - 16）

だれがわたしたちを頼ってくるのか、わたしたちには分かりません。救い主が言われたように、わたしたちは『彼らが立ち返って悔い改め、十分に固い決意をもってわたしのもとに戻って来るようにならない』と言いつけないからである。彼らがそうするならば、わたしは彼らを癒そう。だからあなたがたは、彼らに救いをもたらす者になりなさい。』（3 ニーファイ 18:32）（『リアホナ』2002 年 7 月号, 79）

3 ニーファイ 12:17 - 20, 46 - 47 モーセの律法はイエス・キリストによって成就された

・救い主がこの地上で教え導かれる時代まで、モーセの律法は千年以上の間、イスラエルの宗教と社会生活の基盤であった。ニーファイ人はこの律法が書き記された真鍮版を所有していた。また、ニーファイ人の預言者は、この律法を教え、守っていた。救い主は、ニーファイ人のもとを訪れたとき、この律法は自分によってすべて成就したと教えられた。しかし、ニーファイ人はモーセの律法が「廃〔された〕」あるいはすでに「むなしくな〔った〕」と考えてはならなかった（3 ニーファイ 12:17 - 18）。救い主はモーセの律法を「成就〔した〕」のであって「廃〔した〕」のではない。それはどういうことだろうか。モーセの律法には、道徳的な側面と儀式的な側面という二つの側面があった。

道徳的な側面には、「あなたがたは殺してはならない」「あなたは姦淫してはならない」といった戒めが含まれていた。イエス・キリストは、ニーファイ人に殺人や姦淫だけでなく、怒りや情欲、すなわち殺人や姦淫の原因となる心の状態をも避けるようにと教えられた（3 ニーファイ 12:21 - 30 参照）。したがって、より高い律法であるイエス・キリストの福音は、モーセの律法の道徳的な側面を発展させることによって律法を成就した。すなわち、この福音にはモーセの律法の道徳的な規範が含まれ、さらには、それらの規範が心の変化を求めるより奥深い福音の原則に組み込まれる形となったのである。

モーセの律法の儀式的な側面には、アビナダイが「勤め」や「儀式」と呼んだ動物の犠牲や燔祭に関する戒めが含まれていた（モーサヤ 13:30）。ニーファイ人の預言者は、モーセの律法のこれらの部分が、イエス・キリストの贖いの

犠牲を待ち望めるように人々を助けるためのものだということを理解していた(2 ニーファイ 25:24; モルモン書ヤコブ 4:5; モーサヤ 16:14-15 参照)。そのようなわけで、救い主の地上における召しが終わったときに、これらの待ち望むための儀式は成就した。なぜなら、将来起きると待ち望んでいた出来事がすでに起きて終了し、もはや待ち望む必要はなくなったからである。したがって、救い主は動物の犠牲と燔祭は「取りやめ」なければならず、その代わりに救い主に従う者は「打ち砕かれた心」と「悔いる霊」という「犠牲」をささげるようニーファイ人に教えられた(3 ニーファイ 9:19-20)。そこで贖罪しよくざいを待ち望んだ儀式に代わって、救い主は御自分の贖いの犠牲を振り返るための覚えの儀式、すなわち聖餐せいさんを設けられたのである(3 ニーファイ 18:1-11 参照)。

・ブルース・R・マッコンキー長老はこう述べている。「イエスは、モーセの時代の前、小神権の時代の前に人々が享受していた完全な福音を回復するために来られた。明らかに、イエスは御自身がモーセに啓示されたものを廃するために来られたのではなかった。それは大学教授が学生に積分を教えることで算数を廃止するようなものである。完全な福音を回復することで、イエスは準備の福音の条件を守り抜く必要性を満たしたのである。太陽がすでにありったけの輝きを放って昇っている以上、だれももはや月の明かりで歩く必要はなくなったのだ。」(*Doctrinal New Testament Commentary*, 第1巻, 219-220。スティーブン・E・ロビンソン, “The Law after Christ,” *Ensign*, 1983年9月号, 68-73も参照)

3 ニーファイ 12:19 「打ち砕かれた心と悔いる霊」

・十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、打ち砕かれた心と悔いる霊を持つことの大切さについて証あかししている。「『贖いは聖なるメシヤを……通じてもたらされ』ます。それは、『打ち砕かれた心と悔いる霊』を持つすべての人のためにあり、『このような人々のためにしか、律法の目的は達せられない』からです〔2 ニーファイ 2:6-7, 強調付加〕。『打ち砕かれた心と悔いる霊』という絶対必要条件は、従順で、求めに容易に応じ、謙遜けんそん(すなわち教えを受けることができ)、進んで従うことの必要性を定めています。』(*『聖徒の道』* 1997年7月号, 65)

3 ニーファイ 12:22 「自分の兄弟に対して怒る者はだれであろうと」

・新約聖書は救い主の教えについて次のように説明している。「兄弟に対して〔理由もなく〕怒る者は、だれでも裁判を受けねばならない。」(マタイ 5:22) このテーマに関す

る救い主の教えは、「理由もなく」という言葉が消去されていることを除けば、モルモン書でも同じである。これはすなわち、怒りはすべて避けた方が良いということを示している。知られているうちで最古の写本によると、マタイ 5:22 に「理由もなく」という言葉は書かれていない点に留意すべきである(ダニエル・K・ジャッドおよびアレックス・W・ストッダード, “Adding and Taking Away ‘Without a Cause’ in Matthew 5:22,” *How the New Testament Came to Be*, ケント・P・ジャクソンおよびフランク・F・ジャッド・ジュニア編〔シドニー・B・スペリー・シンポジウム, 2006年〕, 161で引用)。

3 ニーファイ 12:27-29 肉欲を避ける

・リチャード・G・スコット長老は、愛の結果と動機、肉欲の結果と動機の両方を比較している。「主が言われた愛は、ほかの人々を高め、守り、尊重し、豊かにします。この愛は、自分以外の人のために犠牲になろうという気持ちをもたらしめます。これに対し、サタンは肉欲という偽りの愛を助長します。それは自分の欲望を満たしたいという気持ちに支配されたものです。こうした偽りの愛に欺かれた人々は、ほかの人の苦しみや滅亡などほとんど気に留めません。巧みな言葉で自分の行いを正当化してはいますが、その動機は自己満足なのです。」(*『聖徒の道』* 1991年7月号, 35)

3 ニーファイ 12:30 「自分の十字架を負う」

・十二使徒定員会のニール・A・マックスウェル長老(1926-2004年)は、「自分の十字架を負う」という表現について説明しています。

「すなわち、日々十字架を負うとは、日々肉欲に打ち勝つということです。

誘惑を受けながらもそれを『心に留められ』なかった主に倣えば、わたしたちも『世の常』である誘惑に満ちたこの世にあって、立派に生きていくことができます(1 コリント 10:13)。もちろん、イエスは御自分に降りかかってきた途方もない誘惑に気づいておられました。しかしイエスはそれらをいつまでも心に留めておくことはされず、即座にそれらを退けられたのです。わたしたちも受けた誘惑に心を留め、もてあそんでいると、誘惑にもてあそばれてしまうようになります。誘惑に『心を留め』ないようにするには、そうした歓迎されない来客を門前払いにしてしまうことです。なぜならこの来客は、いったん中に入れると追い出すことが難しくなる無法者のようなものだからです。』(*『聖徒の道』* 1987年7月号, 78 参照)

3 ニーファイ 12:31 - 32 「出された女をめとる者も、姦淫を行うのである」

• ブルース・R・マッコンキー長老は、救い主はここでだれに語りかけておられるのか、また、現代に住むわたしたちにこの教えがどのように当てはまるのかという点について次のように述べている。

「離婚を律するこの厳格な律法は、後にマルコが説明したように、パリサイ人に与えられたものでも、一般社会の人々に与えられたものでもなく、そのとき『部屋にいた』弟子たちにだけ与えられたものだった。さらに、イエスははっきりとその適用範囲を制限された。あらゆる人がそのような高い標準に従った生活を送れるわけではなかった。その律法はその律法を与えられた者にだけ当てはまるものであった。

……その律法は様々なとき、様々な人々の間で実施されたかもしれない。しかし、今日、教会は、その律法に縛られていない。今日、教会は性的不道德行為以外にも幾つかの理由で離婚を許可している。また、離婚をしても、再婚し、福音のあらゆる祝福を享受することが許されているのである。」(Doctrinal New Testament Commentary, 第1巻, 548 - 549)

• 救い主がこう語られた目的の一つは、離婚した人と結婚する人を非難することではなく、離婚をすれば結婚で起こるささいないらだちが解決されると思わないよう教えることだったように思われる。離婚について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910 - 2008 年）は次のように語っている。

「当然のことながら、結婚生活はいつも喜びにあふれているとは限りません。何年か前の新聞から切り抜いて取ってあるジェンキンス・ロイド・ジョーンズ氏の言葉を紹介しましょう。

『ドライブインシアターで手を握り合い、肩を寄せ合う多くの若者たちの間に、結婚とは、つまり永遠に若くてハンサムな夫が永遠に若く美しい妻のもとへ帰ってくる、いつも美しく咲く花々に囲まれた別荘のようなものだという誤解があるようだ。花々が枯れ、けん怠と支払い請求書がやって来ると、家庭裁判所が混雑する。……

幸せが続いて当たり前だと思っている人は、だまされたとわめきながら駆けずり回って、多くの時間を無駄に過ごしていくことだろう。』(“Big Rock Candy Mountains,” Deseret News, 1973 年 6 月 12 日付, A4) ……

……ありふれたこととは思いますが、悲しい出来事の最たるものの一つは離婚です。離婚は大きな苦しみとなっています。World Almanac の最新版によれば、1990 年 3 月までの過去 1 年間に、合衆国で推定 242 万 3,000 組の結

婚があり、同じく 117 万 7,000 組の離婚がありました (The World Almanac and Book of Facts 1991 [ニューヨーク: World Almanac, 1990], 834 参照)。

これによると、合衆国では結婚した夫婦のうち、ほぼ 2 組に 1 組が離婚した勘定になります。……

……離婚問題……の大半を占める原因は、利己心です。……

結婚する人たちの中には、いつでも万事好都合でなければならず、人生は楽しいことの連続で、節操もなく、欲望は何であれ満足させるべきだと、甘やかされて思い込んでしまっている人が大勢います。その分別を欠いた空虚な考えは、いかに悲惨な結果を招くことでしょうか。……



……大半の夫婦間のあつれきを癒す道は離婚ではありません。悔い改めです。別れることはありません。男性にとっては、自分の責任を引き受ける決心をする潔さです。それは黄金律です。……

小さな欠点は見逃し、救い、赦し、忘れようとする気持ちが大切です。

舌を制することも必要です。短気は愛情を損ない、愛をけちらす悪癖です。

妻をないがしろにするのを抑えるには、自己訓練が必要です。……

時には、正当な理由があつて離婚することもあるでしょう。離婚が絶対に悪いとは申しません。しかし、各地でなお増えつつあるこの災いは、神から来るものではなく、義と平和と真理の敵である者の働きによるものであると、はっきり申し上げます。』(『聖徒の道』1991 年 7 月号, 73 - 75 参照)

3 ニーファイ 12:48 「あなたがたも完全になることを、わたしは望んでいる」

• 現世で完全になることはできない。しかし、ジェームズ・E・ファウスト管長は、次の世で完全を得られるように、今、完全を求めなければならないと説明している。「完全は永遠の目標です。わたしたちはこの世で完全になることはできませんが、戒めに従って努力し、ついには贖罪を通して完全になれるのです。」(『リアホナ』1999 年 7 月, 21)

• スペンサー・W・キンボール大管長も、完全を目指して努

力する必要性について、次のように説明している。『『それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。』(マタイ 5:48) さて、これは達成可能な目標です。完全でなければ、昇栄することも、目的地に到達することもできません。今わたしたちがにいるこの現世こそ完全を目指して歩み始める最上の時です。わたしは『完全な人なんていません』と言う人には我慢なりません。『だからどうして努力するのか』という意味が含まれているからです。言うまでもなく、ほんとうに完全無欠な人などいません。しかし、完全に至るはしごの高みまで昇る人もいますのです。』(Teachings of Spencer W. Kimball, 165)

3 ニーファイ 13:1 - 8, 16 - 18 義にかなった行いは隠れて行う

• 3 ニーファイのこの聖句は、貧しい人に金銭を与えるときは隠れて行うように、また、人に見られるために祈ったり断食をしたりしないように教えている。主は、義にかなった行いは隠れて行うようわたしたちに勧めておられる。トーマス・S・モンソン大管長は、人知れず行う奉仕の大切さについて説明している。



「最近ある人のお見舞いに大きな病院へ行きました。その地域の病院はほとんどが増築を行っていましたが、この病院も例外ではありませんでした。病室の番号を聞くために受付の所へ行くと、その席の後ろに、増築のために寄付をしてくれた人々への感謝の言葉を書いた立派な飾り額

が掛かっていました。10万ドルの寄付をした人の名前は特に、その飾り額にキラキラ輝く鎖でつるされた真鍮板の上に、美しい書体で刻まれていました。それも一人一人、別々の真鍮板にです。

そこに刻まれていたのは、世間に広く知られた人々の名前でした。実業界の大物、学問で身を立てた人などが名を連ねていました。わたしは彼らの慈善行為に感謝しました。わたしの目をとらえたもう1枚の真鍮板があります。それは前のものとは違って、名前が刻まれていませんでした。刻まれていたのは『匿名』のただ一言^{ひとこと}だけでした。わたしはそれを見てうれしく思い、一体だれなのだろうかと考えました。その人はだれにも知られることなく静かな喜びを味わったことでしょう。……

1年前〔1981年〕の冬、旅客機が離陸直後に失速し、氷

の張ったポトマック河に墜落しました。このとき、勇敢で英雄的な行為が数々見られました。中でも最も劇的だったのは、救助に当たったヘリコプターの操縦士が目撃した男性の行動でした。救助用のロープがもがき苦しむ一人の生存者の所に下ろされました。ところが彼は命綱にすがろうとせず、それを他の人の体に結えたのです。その人が無事に救出されると、再びロープが下ろされました。しかし助けられたのは別の人でした。結局5人の人が氷の水の中から救われたのですが、あの無名の英雄はその中にはいませんでした。名を知られることもなく『……彼がわたしたちに残した鮮やかな印象は誉れあるものでした。』(スティーブン・スペンダー, 'I think continually of those' *Masterpieces of Religious Verse*, ジェームズ・ダルトン・モリソン編〔ニューヨーク: Harper and Brothers Publishers〕, 291で引用) ……

皆さんがこの真理〔奉仕〕を生活の指針とし、神と隣人に仕え胸を張って進んで行かれるように望むものです。ガリラヤに向けて耳を澄ましてみましょう。救い主の教えがこだましてくるのではないのでしょうか。『自分の義を、見られるために人の前で行わないように、注意なさい。』(マタイ 6:1) 『あなたは施しをする場合、右の手のしていることを左の手に知らせるな。』(マタイ 6:3) 良いことをしても『だれにも話さないように、注意なさい。』(マタイ 8:4) そうすればさらに大きな平安を得、生活は輝きを増し、豊かな心を持つことができるでしょう。

隠れた良い行いは人々の前に現れてこないかも知れません。しかしその行いとそれをした人とは神の前に覚えられます。』(『聖徒の道』1983年7月号, 96 - 97, 100)

3 ニーファイ 13:7 「無益に繰り返すことはやめなさい」

• 無益に当たる英語“vain”は「空の、つまらない、内容や価値、あるいは重要性のない」という意味である(Noah Webster's First Edition of an American Dictionary of the English Language, 1828〔1967年〕)。ほとんど何も考えたり、感じたりすることがなく習慣でささげる祈りは無益である。

「預言者モルモンは、『人が真心の伴わない祈りをするならば、……それはその人にとって何の役にも立たない。神はそのような祈りを受け入れられないからである』と警告しています(モロナイ 7:9)。祈りを有意義なものとするには、真心から、また『熱意を込めて』祈らなければなりません(モロナイ 7:48)。自分の態度と用いる言葉をよく吟味してください。』(『真理を守る——福音の参考資料』〔2004

年], 24)

・ジョセフ・B・ワースリン長老は、同じことを繰り返す祈りについて警告している。「同じような言葉を何度も同じように繰り返していると、祈りが意思の疎通というより暗唱になり、意味のないものになってしまいます。『くどくどと祈るな』と救い主が言われたのはこのことです(マタイ 6:7 参照)。」(「祈りを改善する」『リアホナ』2004 年 8 月号, 16。アルマ 34:27-28 も参照)

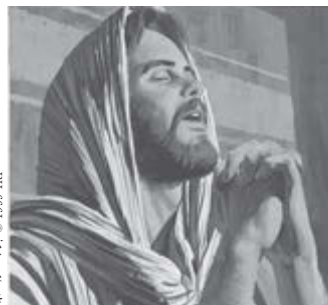
3 ニーファイ 13:9-13

救い主はこの聖句で効果的な祈りについて
どのような原則を教えておられるか。

3 ニーファイ 13:9-13 主の祈り

・わたしたちは主の祈りに含まれている原則を王国における奉仕の模範として用いることができる。大管長会のヘンリー・B・アイリング管長は、次のように教えている。

「祈りは天の御父に対する敬虔さで始まります。その後、主は王国と王国の到来について語っておられます。この教会がイエス・キリストのまことの教会であるという証(あかし)を持っている僕は、教会の発展に喜びを感じ、また王国建設のためにすべてをささげたいという望みを持ちます。



救い主御自身、次の祈りの言葉にあるとおりの模範(みこう)を示されました。『御心が天で行われるとおりに、地にも行われますように。』(3 ニーファイ 13:10) 全人類(しんくさい)と全世界のために贖罪を行われたときの苦難(しもんべ)の中の主の祈りがそれでした

(マタイ 26:42 参照)。忠実な僕は、明らかに最も小さな務めであっても、神が望んでおられるとおりに行いますと祈ります。自分自身のためよりも救い主の業の成就のために働き、祈ることは、きわめて重要です。

その後、救い主はわたしたちのために個人の清さの標準を次のように定められました。『わたしたちに負債のある者を皆ゆるしますから、わたしたちの罪をもおゆるしてください。わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。』(ルカ 11:4。欽定訳から和訳) わたしたちが見守る人々に与えなければならない強さは、救い主から与えられま

す。わたしたちも彼らも、救い主から赦(ゆる)しを得るためには赦さなければなりません(マタイ 6:14 参照)。わたしたちも彼らも、救い主の守りと、救い主の贖罪によってもたらされる心の変化によって、清さを保つことを望むことができます。常に聖霊(はんりよ)を伴侶とするには、この変化が不可欠です。……

皆さんは主の奉仕の業にあつて自信を得ることができません。救い主は皆さんが召された務めを果たすのを助けてくださいます。教会の奉仕者としての一時的な務めでも、あるいは親としての永遠の務めでもです。皆さんはその務めを果たすうえでの助けを祈り求め、それが得られるのを知ることができます。』(『リアホナ』2000 年 7 月号, 81)

3 ニーファイ 13:19-24 「自分のために……地上に、宝を蓄えてはならない」

・エズラ・タフト・ベンソン大管長は、この世の宝の持つはかない性質について次のように語っている。

「わたしたちは時に、いつかは朽ちてしまう取るに足りない事物に、あまりにも執着しすぎることがあります。この世の宝は人生という学校にいる間、教室と黒板を提供してくれるにすぎないものです。わたしたちは、金、銀、家、土地、蓄え、家畜、その他の所有物があるべき位置に置かなくてはなりません。

この世は仮の住みかです。わたしたちは、永遠に向かう第一のレッスン、すなわち主の福音の計画に対する従順を学ぶために、この世にいるのです。』(『聖徒の道』1972 年 4 月, 155 参照)

・十二使徒定員会のダリン・H・オークス長老は、自分のために蓄える宝について次のような洞察を与えている。「救い主は地上に宝を積まず、天に宝を積むように教えられました(マタイ 6:19-21 参照)。偉大な幸福の計画の究極的な目的から考えると、地上と天における最も大切な宝はわたしたちの子供と子孫であると、わたしは考えています。』(『聖徒の道』1994 年 1 月号, 84 参照)

3 ニーファイ 13:34 「明日のことを思い煩ってはならない」

・モルモン書は、イエスが山上の垂訓のこの部分に関してニーファイ人の十二弟子に語られたことを指摘することで、マタイ 6:25-32 の意味を明らかにしている(3 ニーファイ 13:25-34 参照)。イエスは十二弟子にこの指示を出された後で、もう一度群衆に向かって話し始められた(3 ニーファイ 14:1 参照)。山上の垂訓を通して、イエスがこの二つの聴衆の間で何度も対象を変えながら話しておられる点に注目するとよい。

3 ニーファイ 14:1-2 裁く

・ダリン・H・オックス長老は、義にかなった裁きとそうでない裁きの違いを説明することで、3 ニーファイ 14:1-2 の意味を明らかにしている。その後、オックス長老は義の原則について次のように概説している。

「聖典には、裁いてはならないと命じる聖文がある一方で、裁きの必要性、さらには、その方法まで教える聖文もあります。わたしはこの問題で頭を悩ませてきました。しかし、これらの聖文を研究するうちに、矛盾しているように見えるこのような指示にも、永遠という観点から眺めれば、一貫性があることを確信するようになりました。大切なのは、裁きには、わたしたちが禁じられている決定的な裁きと義の原則に基づいて行うようにと指導されている中間的な裁き、これら2種類の裁きがあるということを理解することです。

第1に、義にかなった裁きは、本質的に、中立の立場でなければなりません。……

第2に、義にかなった裁きは、怒り、復讐心、あるいは私利私欲ではなく、主の御霊によって導かれます。……

第3に、義にかなった者となるためには、自分が管理する職の権限内で、中立の立場での裁きを行わなければなりません。……

第4に、できれば、事実に関する十分な知識を得るまでは裁かないようにすべきです。」(“Judge Not” and Judging,” *Ensign*, 1999年8月号, 7, 9-10)

3 ニーファイ 14:7-8 祈りを通して尋ねる

・ジェームズ・E・ファウスト管長は、祈りを通して天の御父に近づくためにわたしたち一人一人に与えられている賜物と特権について証をしている。「救い主を通してわたしたちの創造主に近づくことは、間違いなく、人生における大いなる特権であり祝福です。……この世のいかなる権威も、創造主にじかに近づく道を閉ざすことはできません。祈りには、機械や電子部品のような故障はまったくありません。毎日何回祈っても、いくら長く祈っても制限はありません。また、祈りの中で願いは幾つまでと決められているわけでもありません。恵みの御座に近づくのに秘書を通してたり約束を取ったりする必要もありません。いつでもどこでも、神と会話することができるのです。」(『リアホナ』2002年7月号, 62 参照)

3 ニーファイ 14:12 黄金律

・ラッセル・M・ネルソン長老は、黄金律を引用し、次のように述べている。

「主は黄金律をお教えになりました。『何事でも人々から

してほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ。』(マタイ 7:12) この原則は、おもな宗教のほとんどすべてに見ることができます。孔子やアリストテレスといった人々も教えています。結局、福音はベツレヘムでの幼子の降誕によって始まったものではないのです。それは永遠のものです。それは初めにアダムとエバに宣言されました。福音は部分的に多くの文化に残っています。異教徒の神話にさえも、昔の神権時代からの真理の断片が随所に残っています。

たとえどこでどのように表現されていようと、黄金律には神の王国の道德規範が網羅されています。それは人が他人の権利を侵害することを禁じています。それは国家、団体、個人が等しく従うべきものです。それは、『目には目を、歯には歯を』(マタイ 5:38) という報復的な態度を、哀れみと忍耐に取って代えてくれます。もしその昔ながらの無益な道にとどまるなら、わたしたちは目も歯も失ってしまうことでしょう。」(『リアホナ』2002年11月号, 39 参照)

3 ニーファイ 14:15-20

この聖句の象徴は、自分は預言者であると主張する人々について何を教えてくれるか。

3 ニーファイ 14:15 「偽預言者に気をつけなさい」

・十二使徒定員会の M・ラッセル・バラード長老は、偽りの教義を教えたり、出版したりする人たちに次のような警告を与えている。「偽預言者と偽教師である男女に注意しましょう。彼らは、自分勝手に教会の教義を説き、教会の基本原則を覆そうとする内容のシンポジウム、書物、および専門雑誌を提供することによって、誤った教義を広め、仲間を集めようとしています。神の真の預言者に反することを語り、それを公表する人々に注意してください。また、自分たちがそそのかそうとしている人の永遠の幸福については関心を示そうとしない熱心な伝道者たちにも気をつけてください。……彼らは『利益と世の誉れを得るために、説教をして自分自身を世の光と〔して〕、シオンの幸いを求め……ない』のです(2 ニーファイ 26:29)。」(『リアホナ』2000年1月号, 74)

理解を深めるために

- ・良いことを喜んでやることと嫌々ながらやることとはどう違うだろうか。
- ・「まず神の王国」を求めているかどうか判断するために、自分の行動の動機を分析する(3 ニーファイ 13:33)。

割り当ての提案

- 山上の垂訓の中の思い出せるだけたくさんの教えについて、ほかの言葉で言い換える。その後、3 ニーファイ 12:3 – 12 を調べて自分の言葉と比較する。
- 自分自身の正しくない思いや望みをより完全に捨て去るためには何をする必要があるだろうか。それをどのように達成するかについての計画を書き出す。